

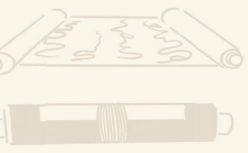


製本したものが一般的である  
ではインターネットでも楽し  
める電子書籍も登場して  
いくは写真が使用されるこ  
と。タイトルとイラストレ  
ーションが果たし、多くのものは  
かかれていたものよりも厚い

録し  
て文  
金  
たのまで  
。紙で  
。作家が  
と。作家が  
ていく様  
た出来事  
を使つて長い  
棒に巻きつ  
れているもの  
文化財にな  
も多い。

# 翠

# 幻地



書くときにペンや万年筆に  
使う。

もの  
ラー  
おのみち【尾道】④広島県の東部に位置する市。山と  
海の距離がとても近く建物が隙間なく並んでいる姿  
から「箱庭都市」と言われることがある。

おのみちしりつだいがく【尾道市立大学】④広島県尾  
道市久山田町にある大学。経済情報学部、芸術文  
化学部、の二学部からなる四年制の公立大学。周  
りを久山田水源地和山に囲まれ落ち着いた環境で  
学ぶことができる。

こうえん【講演】④ゲストが聴衆  
に向けて話をすること。演題

すいげんち【水源池】④水を貯める場所。水を貯め  
おくことで水不足を防ぐ。水が貯め  
なっている様。例今日 勉強三昧だ。

ぶんがく【文学】④①文字を扱った芸術作品。本。  
②文字や文章を扱った学問。

ぶんがくさくひん【文学作品】④文章を使って表現さ  
れた作品。小説、絵本、詩などが含まれる。

ぶんがくさつか【文学作家】④文学作品を  
作る人。本の作者。

だいがく【大学】④教育機関。分野が別  
あり、専門的な知識を身につけるこ



ぶん【文】

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

ぶんげい

## 発刊によせて

『翠幻地』(すいげんち)は尾道市立大学日本文学会が発行する会報誌です。大学に隣接する「久山田水源地」にちなんで名づけられました。企画・編集・発刊のすべてを日本文学部の学生が主体で行っています。

毎年十二月に開催されるおのみち文学三昧は、今年で第十五回を迎えます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限が緩和されたことに伴い、四年ぶりにしまなみ交流館で行われることになりました。

おのみち文学三昧は、前半に研究発表会、後半に公開講演会を行う二部構成となっています。今回の講演会のゲストは辞書編集者の神永曉さんです。

本誌は、文学三昧をより楽しんでいただき、みなさまの今後の学修・研究に役立てられるような内容になっています。どうぞ最後までお楽しみください。

## 目次

おのみち文学三昧講演会ゲスト特集 辞書編集者・神永曉氏	4
講演「国語教育と文学の関係をあらためて考える」 講師・信木伸一先生	6
研究発表者インタビュー 教員編	7
研究発表者インタビュー 学生編	8
編集後記	
奥付	

## 辞書編集者 神永曉氏

日文生がよく使う『日本国語大辞典』（以下、「日国」）。神永氏は、なんと「日国」第一版の編集にも携わられています。そんな神永氏に、気になる辞書編集事情を聞いてみました！

### 【プロフィール】

辞書編集者。元小学館辞典編集部編集長。  
一九五六年、千葉県生まれ。  
八〇年、小学館の関連会社尚学図書に入社。  
九三年、小学館に移籍。尚学図書に入社以来、三七年間ほぼ辞書編集筋の編集者人生を送る。  
『日本国語大辞典 第二版』、『現代国語例解辞典』、『使い方の分かる類語例解辞典』など多数の辞典を担当。  
二〇七年二月に小学館を定年で退職後も、『日本国語大辞典 第三版』に向けての編纂事業に参画している。  
〔意味変語彙力帳〕より引用

### 【Zoomインタビュー】

Q1. 辞書の意味や用例を書く仕事は、編集者とは別ですか？

A1. 辞書の作り方にもよりますが、辞書編集部がかなり編集に関わっています。しかし、研究者中心のものはその人たちが中心となることが多く、編集部はプロデュース的な役割をします。

Q2. 「日国」に掲載する用例（初出例等）を探すのにどれくらい古典を読めますか？

A2. 手分けをして、時代区分別に調べています。ほとんどの古典文学は調査済みですが、もっと古い例がありそうなものはもう度頭から読むようにしています。調べるものによりますね。

Q3. 近年変わりつつある辞書編集の電子化についてどうお考えですか？

A3. 当然の流れだと思えます。活版印刷だった時代には、確認のために校正刷りを何校もとって大量の紙を使っていましたが、デジタル処理に変わってからはそれがなくなりました。エゴになったわけです。また、昔は手作業だった相互参照のチェックも簡単にできるようになりました。  
一方で、増えた仕事もあります。パソコンのスキルを身につけることです。また、校閲の際に、紙のゲラでは誰が手を入れたのか筆跡で分かりますが、デジタル化されると誰が加筆訂正したのか分からなくなるため、その記録を残す必要もあります。入力ミスも気づぎにくいいため、私などは、音声読み取り機能を活用することもあります。  
もし、昔の「日国」編集者が現在の編集室を見たら、驚くと思います。パソコンが並んでいるだけです（笑）。

# 講演「国語教育と文学の関係をあらためて考える」

講師 信木伸一 先生

信木先生は今年度で本学日本文学科教員を退任されます。文学三昧でのご講演に際して、今までのご経験などについての質問に答えていただきました。

国語教育学という  
他分野から、文学の  
お話をします。



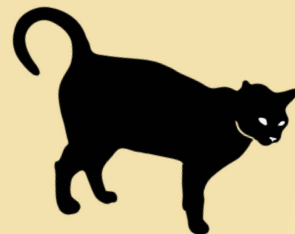
構成/原

◎国語教育学の研究をはじめられたきっかけは何ですか。  
学校現場で、生徒が学ぶ価値を実感できる授業がした  
いという動機から。

◎中学校、高校で教員をされた経験は現在の活動にどのような  
生かされていますか。

現場での経験的認識と学問上の科学的認識が有機的に  
結びついて理解されること。

◎国語の教材でお好きなのはありますか。  
書き手が提示する認識に対してリス  
ペクトを感じられるもの、例えば『源  
氏物語』、『徒然草』も。



文・構成/原

## 研究発表者インタビュー 教員編

研究発表をされる皆さんにインタビューを受けていただき  
きました。教員からは今年度で退任される藤沢先生と、  
今年度着任された高島先生が登壇されます。

### 「読本『不知火草紙』考」

藤沢毅先生

◎発表で取り上げられる『不知火草紙』に興味を持たれたきっかけ  
は何ですか。

読本を読む研究会での担当の一つが『不知火草紙』でした。  
変な出版のされ方や、作者の「恋香亭睡仙」って誰？というた  
ころから興味を持ちました。

◎発表の準備で特に力を入れた点は何ですか。

大坂本屋の記録を丹念に追うこと、ですかね。  
大事な「読み」についてはこれからです。



文学研究の楽しさを、  
また謎解きの楽しさを  
聞いてくださる方に  
味わっていただきたい  
です。

### 「言葉に反映される「錯覚」

——認知言語学におけるFictivityについて——

高島彬先生

◎今回発表される内容について興味を持たれたきっかけは何ですか。  
これまで言語変化、特に意味変化に興味をもって研究して  
きましたが、今回発表する研究は、意味変化だけでなく、文法  
規則や構造を変化させる要因についても考えてみたいと思っ  
ているときに見つけたものです。

◎発表の準備で特に力を入れた点は何ですか。

言葉の分析には、文法的や音声学的など、様々な切り口が  
あります。今回は、私の専門とする認知言語学の切り口を知  
ってもらえるよう、認知言語学を初めて知る人にもわかりや  
すい説明ができるよう力を入れています。



認知言語学とは人間の世界の  
捉え方が言語にどのような影響  
を与えているのかを考える学問  
分野です。今回の発表を通じて、  
言語の不思議さ、言語を用いる  
人間の不思議さに興味を持って  
もらえると嬉しいです。

# 研究発表者インタビュー

## 学生編

十一月の研究発表会を経て、大学院生の槇原さん、学部3年生の原さんと水田さんが文学三昧の学生発表者に選ばれました。皆さんがどのように発表の準備をしているのか、教えていただきました。



槇原 賢司さん  
大学院1年・信木ゼミ  
発表題目「中学校教科書における『読むこと』と『書くこと』の関連指導」



原 優花さん  
学部3年・藤本ゼミ  
発表題目「時代浄瑠璃の古めかしさの表現方法——『国姓爺合戦』の二段活用の一段化を中心に——」



水田 文菜さん  
学部3年・藤川ゼミ  
発表題目「正中二年七夕御会和歌懐紙について」

◎研究のきっかけを教えてください。

槇原さん  
きっかけは、学部時代に行った古典作品の関連指導の研究によるものです。古文教育は生徒たちの感覚や視野を広げる、非常に可能性のあるものだと思います。だからこそ、自分が考えてみたいという発想から着手しました。

原さん  
一年生の時に日本語学基礎演習で「近世」の用例を探しました。それがちよつと古風な作品からとってきたので、「近世の用例」としては不適でした。その時は使えなかつたけれど興味を持ちました。

水田さん  
中世文学専門演習で資料探しをしていた時に見つけたことがきっかけです。元々は別の作品について調査を進めようとしていたのですが、途中で見通しが持てなくなつてしまい、現在のものに切り替えました。

水田さん

夜更かしすることが多いので、夜型だと思えます。

◎文学三昧に向けて意気込みをお願いします。

槇原さん  
今回文学三昧に選出して頂いたことを大変光栄に感じております。これまで積み重ねてきたものを最大限活かせるように、大学院生という名に恥じないような発表を頑張ります!!

原さん  
皆さんにも楽しんでもらえるように頑張ります。

水田さん

このような形で前に立つ機会があまりないので、今から上手くいくか不安ですが頑張ります。

◎発表の準備で力を入れていることは何ですか。

槇原さん  
資料作りです。資料の見やすい配置や段落構成を意識しました。また各章で明らかにしたいことが誰が読んでも伝わるように、そして自分の考えがひと目で分かるような資料づくりを心がけました。

原さん

まずは皆さんに高校古典で習う文法を思い出してもらえようにならなうと思いました。そのために適切な用例を探しました。

水田さん

先行例等を再調査して説明の補充をすること、他資料や文献を参考に取り入れ内容を厚くすることを目指して準備を進めています。

◎いま楽しさどつらさをパーセントで表すといかがですか？

槇原さん

三七七です(笑)。理由はハードスケジュールが重なつていて、学部生の時より毎日

が大変だと痛感しているからです。もう少し余裕を持てるように日頃から頑張りたいです。

原さん  
六〇%、四〇%くらいです。研究は楽しいですが、限られた時間で進めなければならぬのがつらいです。ねむい。

水田さん  
楽しい二〇%、つらい八〇%です。やる気が出ない時や作業しているはずなのに何も進んでいない感覚になる時がありつらいです。ただ二〇%の楽しい瞬間が強烈でそのため続けようという気になります。

◎朝型ですか？夜型ですか？

槇原さん

夜型です。遊んでいるわけではないのですが就寝時間はどう頑張つても二時を超えてしまいます。今は朝型に切り替え中です。

原さん

最近夜型になりました。早寝すると二〇時間以上寝てしまうので、夜ねばりません。

尾道市立大学日本文学会会報誌

翠幻地 第63号 文学三昧号

令和5年12月9日発行 尾道市立大学日本文学会編

編集委員 東山流風(芸術文化学部日本文学科4年)  
平山俊輔(同4年)廣田さくら(同4年)  
西峯十和(同3年) 原優花(同3年)  
名越咲矢香(同2年) 吉富綾乃(同2年)  
岡崎匠(同1年) 濱名渉(同1年) 山口和真(同1年)

取材協力 神永暁氏  
藤沢毅先生(尾道市立大学学長)  
信木伸一先生(芸術文化学部日本文学科教授)  
高島彬先生(同講師)  
榎原帝人さん(芸術文化学部日本文学研究科修士課程1年)  
原優花さん(芸術文化学部日本文学科3年)  
水田文菜さん(同3年)

表紙デザイン 林里穂さん(芸術文化学部美術学科3年)

編集協力 宮谷聡美先生(芸術文化学部日本文学科教授)  
藤川功和先生(同教授)

発行者 尾道市立大学日本文学会  
〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2

印刷・製本 プリントパック

## 編集後記

今年もおのみち文学三昧に伴って『翠幻地』  
文学三昧号を発行することができました。  
講演会ゲストの神永さまをはじめ取材にご協  
力いただいた皆さん、素敵な表紙をデザインして  
くださった林さん、そして読者の皆さまに、心から  
感謝申し上げます。  
編集委員はこれからも皆さまに楽しんでいた  
だけのような誌面を制作していきます。今後と  
も『翠幻地』をよろしく願っています。